

MOUTH FOR WAR

マウス・フォー・ウォー

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

ギターとベースによる、パワフルなユニゾン・リフからこの曲は始まっている。ギターのサウンドは、かなり強烈だ。ハードなディストーションのかけられたサウンドだが、アンプなどによるナチュラルなものと違って、やはりエフェクター類を使っているもののようだ。少し高音がブーストされたようなサウンドであり、ショート・タイムのディレイもうすくかけられている。ドラムのサウンドも、かなり硬めでバスドラなどは、まるで金属音のように感じられるほどだ。Intro①の部分では、ベースのアクセントをしっかりとつけて、各楽器のブリをしっかりと合わせてプレイしたい。Intro②のリフは、スライドのテクニックをうまく使ったものになっている。ギター、ベース共に、ここはなめらかに弾くよ

うにしよう。Intro②の8小節目にあるようなギターのX印の音は、左手で弦をミュートしながらピッキングしているものだ。ここは、高音のハーモニクス音を鳴らすようにして、刺激的なノイズを出している。回はギター・ソロだ。ここのギターも、ハードなディストーション・サウンドで弾かれており、少しコーラス系のエフェクターも使われている。後半の速いフレーズでは、オルタネイト・ピッキングで、1つ1つの音を力強くピッキングしよう。又、最後のフレーズだけ2拍の長さでディレイがかけられている。恒の部分からテンポが変わっているので注意しよう。ここからは、かなりアップ・テンポの演奏になっているので、リズムがもたついたりしないようにしたい。

































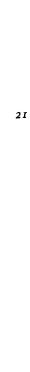
















A NEW LEVEL

ア・ニュー・レヴェル

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

トリッキーなピック・スクラッチからこの曲はスタートしている。ギターやベースは、低いDの音も弾いているので、それぞれ6弦と4弦をD音に下げてチューニングしておこう。ギターのサウンドは強力なディストーションのかけられたものであり、理論を無視したような不思議なコード進行の曲になっている。ベースやドラムもギターに負けないように、パワフルな演奏を心がけよう。Intro②のギター・リフで、スタッカートのつけられている音は、少し右手でミュートぎみに弾くと良いだろう。Intro③から、リズムは16ビートになっている。ドラムは囚からのドラム・パターンでも、バスドラの16分音符を正確に打つようにしたい。又、ハイハットは、少しオープンぎみにして叩いた方が良いだろう。

図の直前などでリズムのキメになっている部分がある。ここでは、各楽器のタイミングをしっかりと合わせて、リズムが乱れないように注意してもらいたい。 国の途中から弾かれている Gt-2は、エフェクターとしてワウ・ペダルが使われている。ここでは、あまり極端にサウンドを変化させずに、フレーズに合わせてほんの少しペダルを踏み込んでいる。これは、国のギター・ソロでも同様だ。このソロでは、かなりスピードの速いフレーズも弾かれているが、どの音も非常に力強くピッキングされている。又、チョーキングのテクニックも多用されており、右手だけではなく左手も力強くプレイするようにしたい。













































Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

この曲では、8分音符がすべて3連符のノリになっているので注意してもらいたい。又、ギターやベースの最低音がDの音になっているので、それぞれ6弦、4弦をD音に下げてチューニングしておこう。ギターのサウンドは、破壊的なハード・ディストーションだ。ベースやドラムは硬質なサウンドで、しかも1つ1つの音を非常にパワフルに演奏している。全体的にゆったりとしたテンポであり、ドッシリとした重たいリズムでプレイするようにしよう。又、パンテラらしい不思議なコード進行になっており、

譜面では無調という形になっているが、中心となるコードはDのようだ。回はギター・ソロだ。最初のフレーズは、2つの音を同時にチョーキングしているものだ。又、2音や2音半の音程でのチョーキング・フレーズも出てくるので、音程に気をつけてプレイしよう。その他、このソロでは左手のスライドのテクニックも効果的に使われている。1つ1つの音をていねいに弾くようにしたい。























Repeat & Fade 0

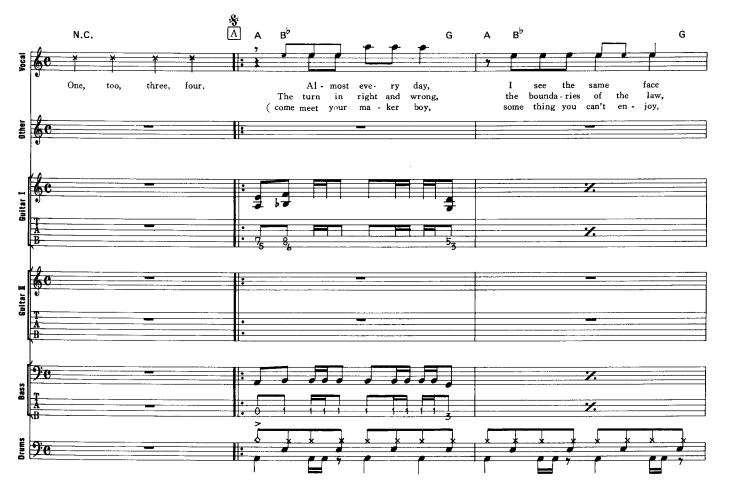
FUCKING HOSTILE

ファッキング・ホスタイル

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

かなりテンポの速い曲だ。譜面では、16ビートのリズムで書かれているが、ドラムのパターンなどは、アップ・テンポの8ビートと考えた方が良いだろう。 囚の部分は、5 小節のパターンを繰り返している。ここは、ギターとベースがユニゾンのリフになっているので、リズムが乱れないようにしっかりと合わせるようにしよう。スピードが速いのにドラムなどは、かなり力強い演奏だ。1つ1つの音をカー杯叩くようにしたい。バスドラは、スピードの速い16分音符を刻んでおり、ダブル・ペダルを使って叩かないとちょっと無理だ。パンテラは、そのヴォーカル・サウンドもかなり個性的だ。この曲でも、 回直前のシャウトなど完全に入力オ

ーバーで、破壊的なサウンドになっている。□の部分はギター・ソロだ。この曲のギターは、すべてハード・ディストーション・サウンドでプレイされているが、このソロでは、さらにワウ・ペダルをエフェクターとして使っている。スピードの速いフレーズを多く弾いているが、ワウ・ペダルは2拍ぐらいのタイミングで、比較的ゆったりとペダリングしているようだ。□の5~7小節目の16分音符によるフレーズは、非常にスピードの速いものだが、オルタネイト・ピッキングで1音1音しっかりとピッキングするようにしよう。





























THIS LOVE

ティス・ラヴ

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

ナチュラルでクリアなサウンドのギターが、Introから弾かれている。このギターには、コーラス系のエフェクターがかけられてあり、ここではアルペジオ奏法を行なっている。この部分は、ベースやドラムもボリュームを控えめにした演奏をしている。この部分、パーカッションとしてカバサも入れられている。 国の部分から叩かれている 8 ビート・パターンは、リム・ショットを使ったおとなしいパターンではあるが、あまり力を抜かずに、次第にパワフルに叩くようにしよう。 国の部分で弾かれているギター・ソロは、ディストーション・サウンドでのプレイだ。ここはアーミングのテクニックを多用しており、エフェクターとして、ワウ・ペダルも少し使われている。 回では一気にパワフルな演奏になっ

ている。ギターのサウンドもハード・ディストーションのかけられたものであり、ベースやドラムもカー杯演奏するようにしよう。 匠のギター・ソロは匠と同様のサウンドだが、ここではディレイもかけられており、広がりのあるサウンドになっている。 貸は、16ビートのリフをギターとベースのユニゾンで弾いている。 4小節目では、3連符のフレーズもあるので、正確なリズムでプレイしてもらいたい。 団は少し長目のギター・ソロを弾いている。他の曲とくらべて速弾きなど難しいフレーズは弾いていないが、ここもワウ・ペダルをうまく使って感情を込めるように弾くと良いだろう。





















































Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

スピードといい、そのサウンドといい、非常に迫力のあるリフからこの曲はスタートしている。ギターはもちろんハードなディストーションのかけられたサウンドだ。ドラムも力強く、ハイ・ハットなどはハーフ・オープンで叩くようにしよう。国の部分から少しゆったりとしたリズムのノリになってはいるが、サウンドの迫力は失わないようにしたい。©で弾かれているギターのリフは、体符を効果的に使って、間を生かしたフレーズとなっている。一つ一つの音を歯切れ良く、鋭いピッキングでプレイするようにしよう。なお、ここはベースとユニゾンのリフになっているので、リズムはしっかりと合わせるようにしたい。なお、ギターのリフは常に2本がオーバー・ダビングによりユニソンで重ねられているが、譜面では、一本のみギター1の段に書かれている。ディレイを使い、音を左右に振り分けて、同様の効果を出すことも出来

るので試してみても良いだろう。 II はギター・ソロがプレイされている。ここではかなりの速弾きが行われている。フレーズはスケール練習の様な、メカニカルなものが多いのだが、スピードが速いので、かなりのテクニックが要求されるだろう。16分音符は譜面に指示がない限り、必ずダウンとアップを交互に繰り返すオルタネイト・ピッキングで、どの音も力強く弾くようにしよう。また、このソロでは、アーミングのテクニックを効果的に使われている。トレモロ・アームをつかんだり放したりと、かなり忙しいプレイとなりそうだが、どのフレーズも決していい加減に弾かずに、丁寧な演奏を心がけてもらいたい。なお、このギター・ソロでは、バッキングの時よりも少しソフトなディストーション・サウンドになっている。また、少しディレイをかけて、伸びのあるサウンドでプレイすると良いだろう。







 $\mathsf{D}(\mathit{on}\,\mathsf{G}\sharp)$

Guitar II





 \textbf{A}^{\flat}

Oh



G















in,

no one gives

turn our backs

D(onG#)

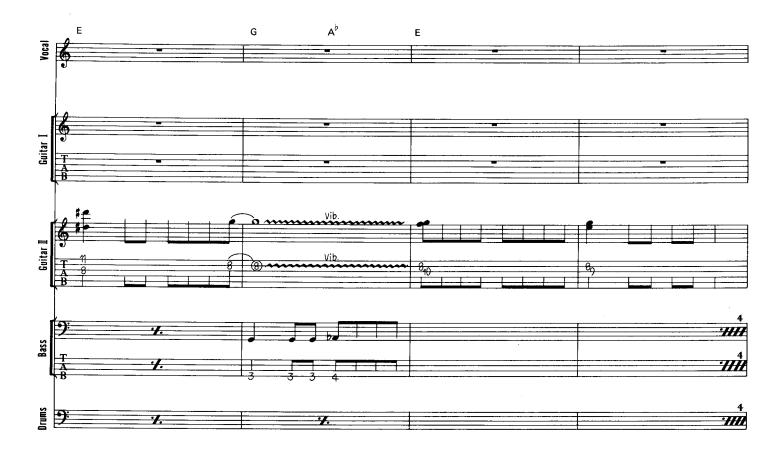
Guitar I

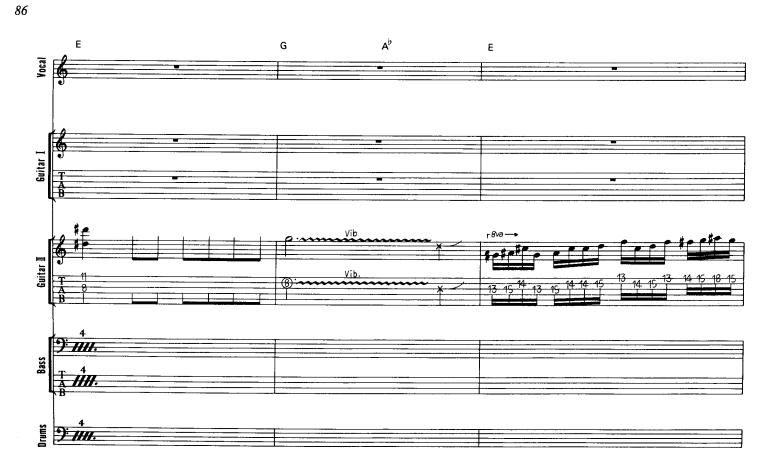
u - ni - ver - sal





























NO GOOD(ATTACK THE RADICAL)

ノー・グッド(アタック・ザ・ラディカル)

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

この曲は、ギターとベースのそれぞれ6弦と4弦を、Dの音まで下げてチューニングしている。譜面のタブ譜はこの状態でのフレットの位置を表しているので間違えないようにしてもらいたい。イントロから弾かれているギターのサウンドは、かなり強力なディストーションのかけられたものだ。ベースもギターとユニソンでリフを弾いているが、音が切れないように、レガートでプレイすることがポイントとなるだろう。 ギターのリフでは低音のFからGにかけてのチョーキングを、正確な音程で、タイミングがずれないようにプレイすることが大事だ。イントロの1小節目では、ギターはオクターブ奏法も行っている。ここは3弦と5弦を使っているわけだが、そのあいだの4弦をしっかりと左手の指でミュートして、余計な音が鳴らないようにしなければいけない。ドラムのリズムも強力だ。バス・ドラは32分音符まで使われており、

当然ダブル・ペダルを使う必要があるだろう。 国のバッキングは ギターは休みになっており、ベースが一本で頑張っている。 ここ はリズムに気を付けて、ドラムとノリを合わせたプレイをしても らいたい。 国のリフは、ギターとベースがユニゾンでプレイして いる。ここはリズミカルに、一つ一つの音を歯切れ良く弾くよう にしよう。 ©の部分も同様だ。 匡ではギター 1 がアーミングのテクニックを使った、トリッキーなフレーズを弾いている。 ここは、どこでも良いから、ハーモニクスで高音を鳴らしそれを派手にアーミングすればよいだろう。 あまり細かいことを気にせずに、 思い切りの良いプレイをすると良いだろう。 匠のギター・ソロもか なり派手な速弾きフレーズを弾いている。 スピードが速いフレーズでも、一つ一つの音は力強く弾くことがポイントだ。 匠の最後のフレーズは 2 本のギターのハーモニー・プレイになっている。

















I've seen your side

his pri-vate grave_

_ No

•#

H

say - ing

to

e · ven talk



You'd bet-ter lis-ten to a man who knows....what he's

No one to point at, Ques - tion, or

straight out

- rie - ty,

Guitar I

in my o-pi - nion,

full of anxi - e - ty,



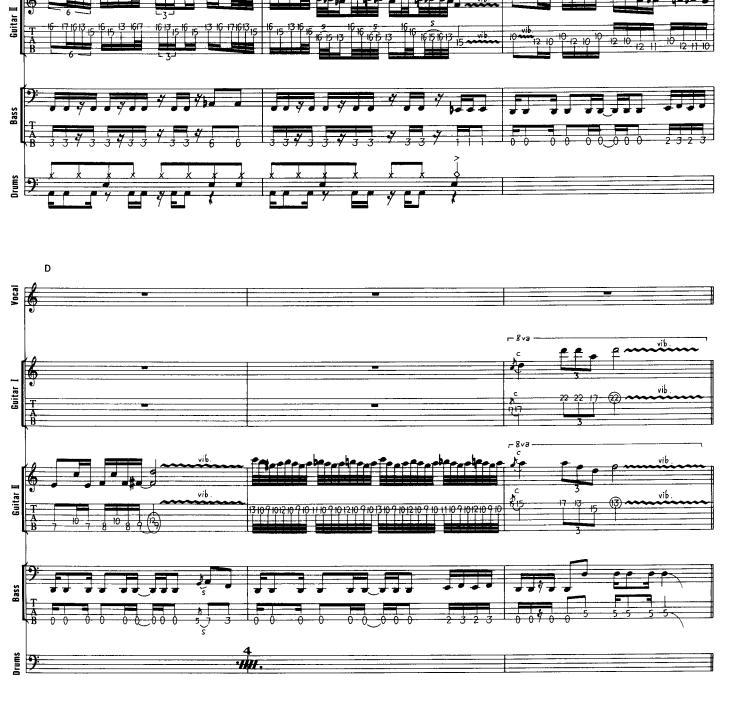




% D d













D D#

LIVE IN A HOLE

リヴ・イン・ア・ホール

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

イントロのギターとベースのリズムは、非常に合わせにくいものとなっている。ここは単音のシンプルなリフなので、リズムが乱れないように細心の注意を払うと同時に、どの音も出来るだけ力強くピッキングするようにしよう。ギターのサウンドはもちろんディストーションのかけられたものだ。国からはギター2がソロをプレイしている。ここでは少し面白いサウンドも使われている。まず、国の前半部分のプレイは、どうやら、少しワウ・ペダルを使っているようだ。また、ディレイもかけて、伸びのあるサウンドでプレイしている。さらに後半ではトーキング・モジュレーターも使われている。このエフェクターはギターの音をチューブを使って自分の口から鳴らすというもので、ジェフ・ベックなどのプレイヤーが昔よく使っていたものだ。国の部分から、リズムのノリが変化している。ここからはゆったりとしたリズム・パター

ンでの演奏だ。この部分、コードとしてはEのコードということだが、普通のコード・サウンドではなく、Dinの音を強調したりしており、独特のパンテラ・サウンドとなっているようだ。 Eleはイントロと同様のパターンだ。 回はギター・ソロだが、ここからはテンポが変化しているので気を付けてもらいたい。少しアップ・テンポになっているのだ。ここでは、ライト・ハンド奏法も行われている。これは右手を使って、ハンマリングやプリングなどを行っているものだが、譜面で矢印の付けられている音は右手で押さえているものだ。ここではチョーキングも同時に行っているので、音程には気を付けてプレイしよう。この後も、テンポが元に戻ったり、また①の部分でさらに速くなったりと、随分リズムが不安定な曲になっている。プレイヤーの呼吸を合わせるようにして、タイミングの合った演奏をしたい。





















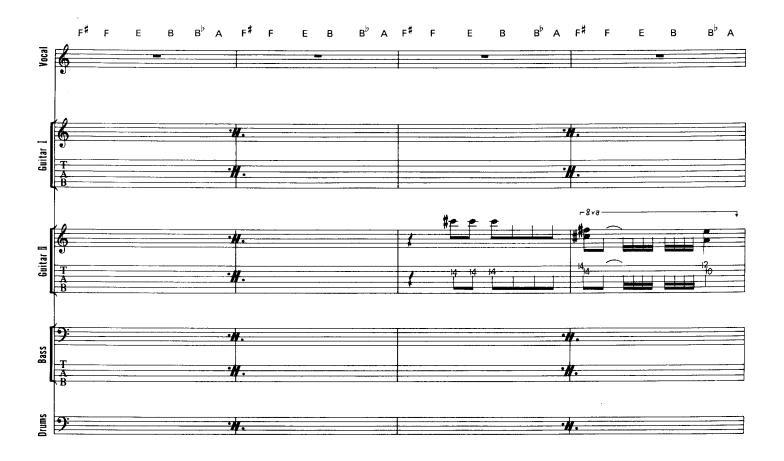








% È F



IIO









С



Tempo-I

∏ Gm







the will

 \coprod F



REGULAR PEOPLE(CONCEIT)

レギュラー・ピーブル(コンシート)

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

イントロは3連符のユニゾン・フレーズをギターとベースが弾いている。こういった、何でもないようなフレーズも、きちんとリズムを合わせないと、台無しになってしまうので、決して手を抜かないようにしよう。 機械のように正確に弾くようにしないと、パンテラ独特の雰囲気はなかなか出しにくいのである。 イントロで3連符だったのが、回になるといきなり16分音符の連続になっている。しかも、ここもユニゾンのフレーズだ。このリズムの変化には十分に気を付けてもらいたい。よほど息のあった演奏をしないと、なかなか難しいだろう。16分音符の一つ一つを正確に弾くことがポイントだ。また、ピッキングは常に力強く行うようにしよう。 匡のボーカルのバッキングはギターはシンプルに白玉でのプレイになっている。この様に、一曲の中でも盛り上げるところと、押さえるところがあるので、メリハリをつけた演奏をするよう

にしたい。 ①からはリズムがイントロと同様に3連符のものになっている。ここは12/8拍子の様なつもりで演奏しても良いだろう。 ②はギター・ソロがプレイされている。このギターにはエフェクターとして、ディレイもかけられているようだ。6連符を多く使ったスピードの速いフレーズが弾かれているが、譜面に指示がない限り、オルタネイト・ピッキングで一音一音力強く弾くようにしよう。 どの音も輪郭のはっきりとしたサウンドでプレイすることが大切だ。また、この部分のベースは動きの激しいフレーズを弾いている。3連符の連続になっており、正確なリズムでプレイすることも大事だが、左手のフィンガリングもスムースに行うようにしたい。 ②でもギター・ソロが弾かれている。ここはアーミングのテクニックを使った演奏だ。アームはフレーズのタイミングに合わせ、思いっきりオーバーに操作しても良いだろう。

116













119



Ε

G

E





В



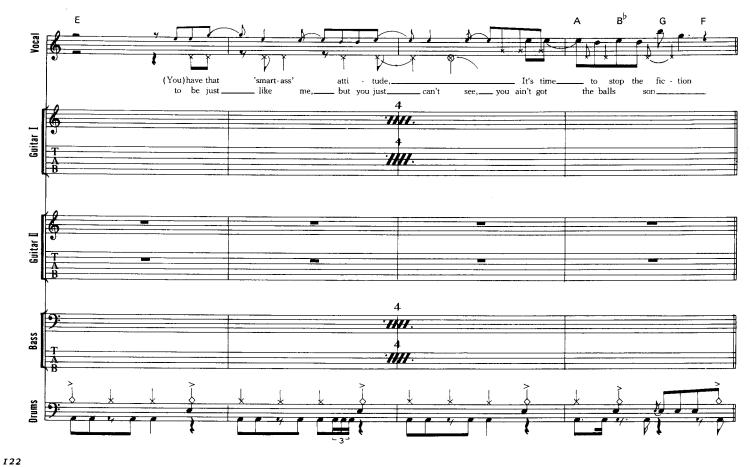
Α

 B^{\flat}

G

F

Ε







В

G



G















____F[♯]

F#





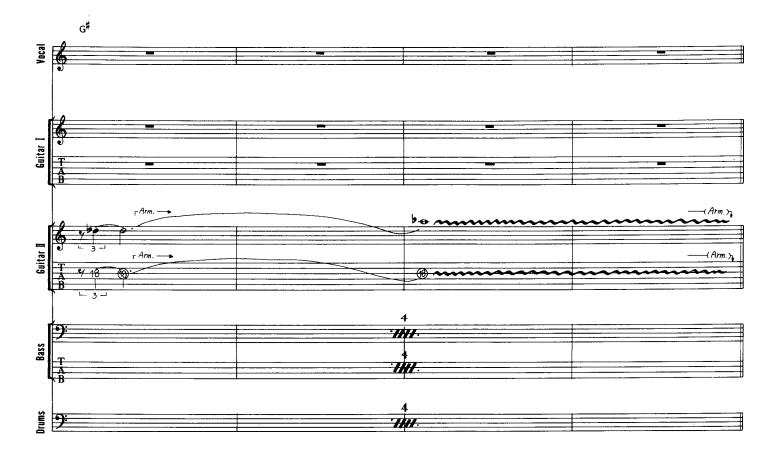






7#/

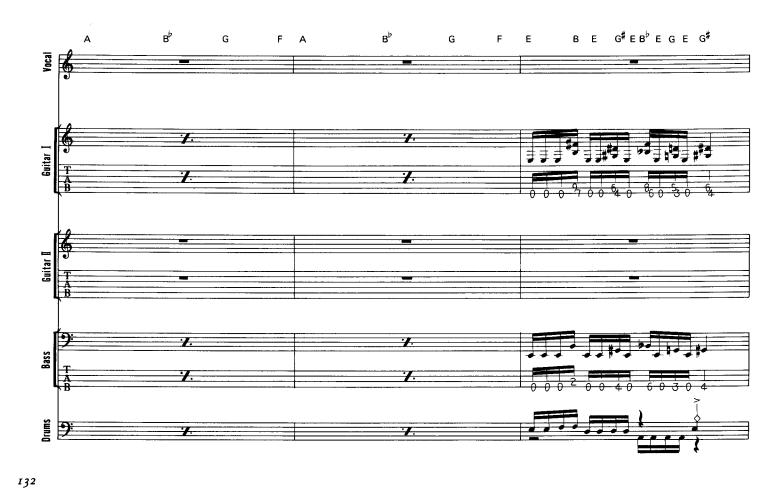
G[#]



Me senior with the senior of t

130







BY DEMONS BE DRIVEN

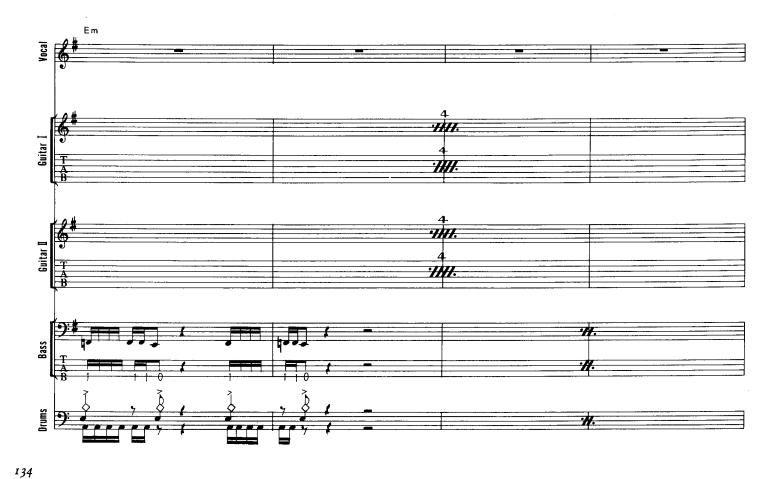
バイ・ディーモンズ・ビー・ドリヴン

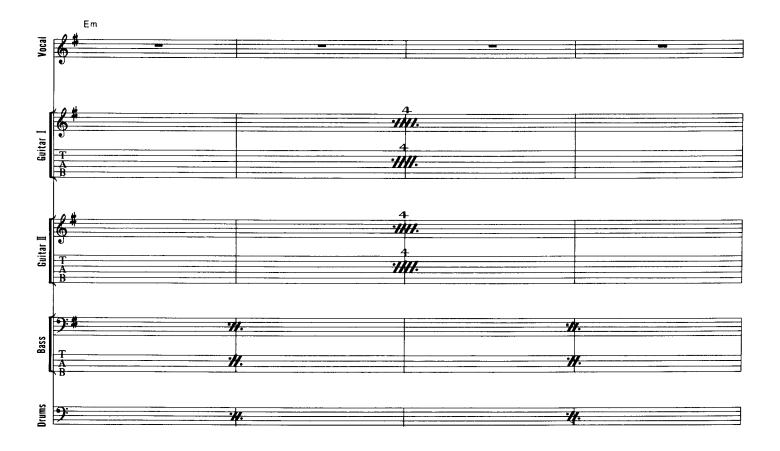
Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

国の部分から実に複雑なリズムになっている。ギターのリフはかなり力強いピッキングで弾かれているのだが、動きの激しいフレーズにもなっており、フィンガリングやポジションの移動も素早く行うことが必要だろう。ドラムはバス・ドラを16分音符で踏んでいるので、ダブル・ペダルを使い、正確なリズムでプレイするようにしよう。国のギターのリフでは、所々でピッキング・ハーモニクスのテクニックも使われている。これはピックを持つ右手の親指をピッキングと、同時に弦に当てるようにしているものだが、ここは、それほど極端なハーモニクスを鳴らしてはいない様だ。このリフはベースとユニゾンになっており、ここはレガートで、音が途切れないようにプレイしよう。国の最後の部分ではギター2はアーミングによる、効果音を弾いている。ここはノイズのようなものであり、自由にプレイして良いだろう。またギター

1の最後の音はオクターヴ上の音も鳴っており、ここはハーモナイザーなどのエフェクターを使っているようだ。 Eの部分のギター1はユニークなサウンドだ。かなり高い音が鳴っているが、これは譜面にある音を弾いて、それをハーモナイザーなどのエフェクターを使ってオクターヴ上に上げているものだろう。 また、ここはリズムも少し複雑になっているので注意してもらいたい。 こういった複雑な部分では、ギターのフレーズを身体で覚えてしまうようにすると良いだろう。 Eの後半部分でのギター 2のフレーズにもハーモナイザーが使われている。 ここは譜面の音に重ねて、ハーモナイザーによるオクターヴ上の音も、一緒に鳴らしているのだ。また、アーミングのテクニックも効果的に使われている。ギター1の譜面の様に×印で書かれている音は、ノイズのようなものだ。ここは思いきり派手にアーミングしよう。











. Em

Guitar I















⊕Coda **1** Em

N.C.

N.C.



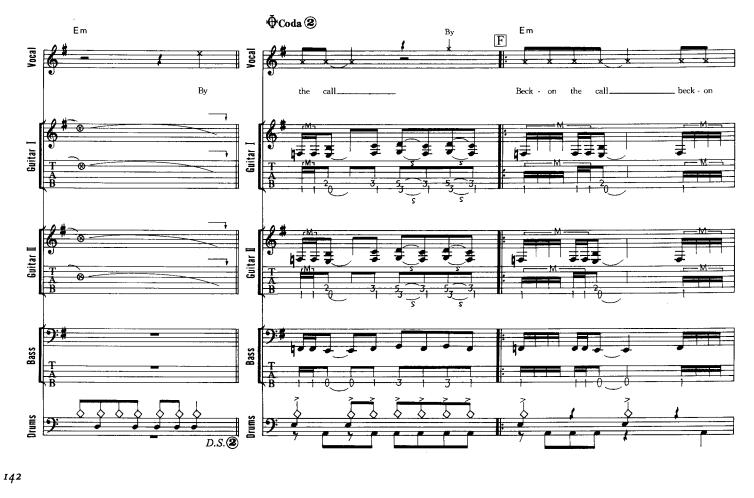






2. N.C.

Guitar I











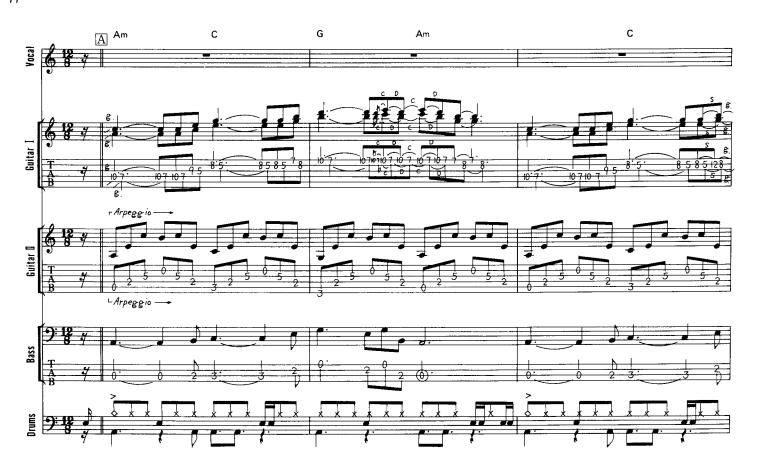
HOLLOW

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

この曲は12/8拍子のリズムで始まっている。この画の部分は2本のギターがハーモニーでメロディーを弾いている。この2本はギター1の譜面にあるものだ。これはソフトなディストーションのかけられているサウンドだ。ギター2はこの部分ではクリアなサウンドを使ってバッキングを行っている。ここはアルペジオ奏法であり、5弦や2弦の開放弦の音をうまく使ったフレーズとなっている。またここでは少しコーラス系のエフェクターをかけると良いだろう。回の4小節目では、ほんの部分的にではあるが、アコースティック・ギターもオーバー・ダビングで入れられている。ここも2本のギターによるハーモニーだ。回は国と同様のハーモニー・プレイだ。ここでは2小節目にアームを使ったフレーズも弾かれているので注意しよう。2本のギターのタイミングを合わせてアーミングすることがポイントだ。同はギター・ソロだ。

ここは強力なディストーションのかけられたサウンドでのプレイになっている。2 小節目では9 連符を使ったスピードの速いフレーズも弾かれているが、ここはプリングやハンマリングなど左手のテクニックをうまく使うことがポイントとなるだろう。匠は変拍子になっている。ここはギター2 はアコースティック・ギターを使ってのプレイだ。13/8や、14/8拍子といったかなり複雑なリズムではあるが、16分音符を3つと2つの組み合わせに分けて、フレーズの流れをつかむようにしてプレイすると、楽にリズムを把握出来るはずだ。⑥からは普通の4拍子になっており、ギターとベースは16分音符を元にしたフレーズを、ユニゾンでプレイしている。ドラムはバス・ドラが細かい16分音符や32分音符を踏んでいる部分が多くでてくるので、ダブル・ペダルを使い、正確なリズムでプレイしよう。

144





С



Am7 (onG)

D7 (onF#)

Am

С

G

Αm







G[#]dim

< A.Guitar >

_ he were dead

_ he were dead



Am7 (onG)

D7 (on F#)

No

ones

knows

knows

what's

what's

 \mathbb{C} Em

Guitar I







I a - lone now

hol · low as

He as hol-low as I a-lone now

7.

r Harm.→

r Harm

D7 (on F#)

Am7 (onG)

Guitar I

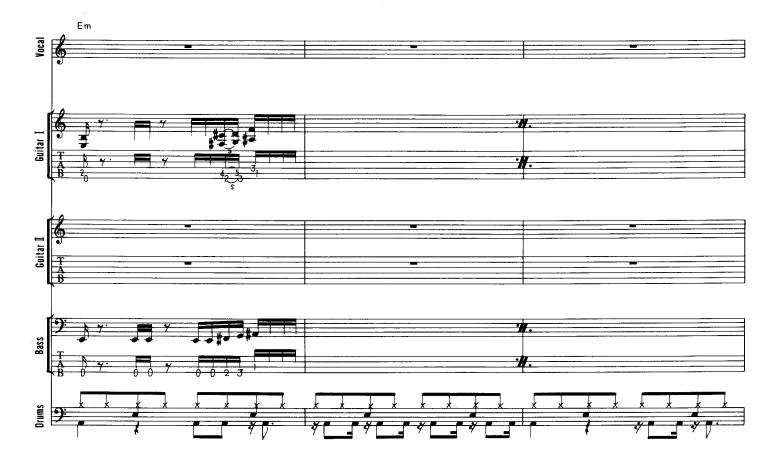
Bass

F Em

- Arm wich Harmonizer

~A. Guitar>

- Arm with Harmonizer









at God

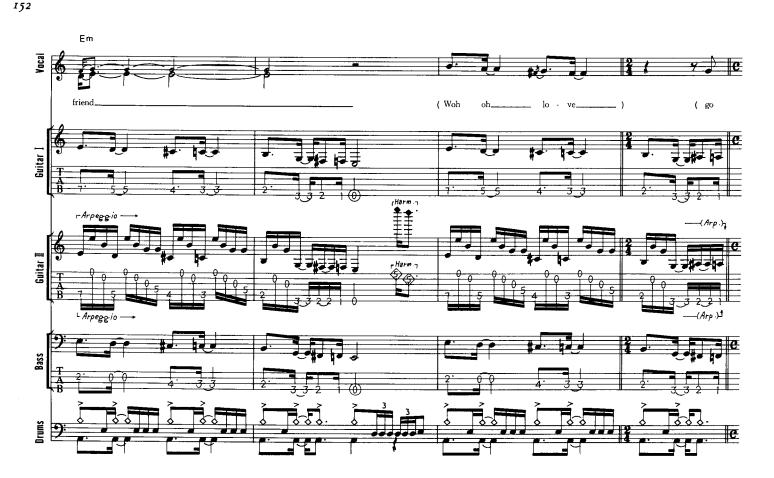
Mad.

Εm

Guitar I

Guitar 🏻





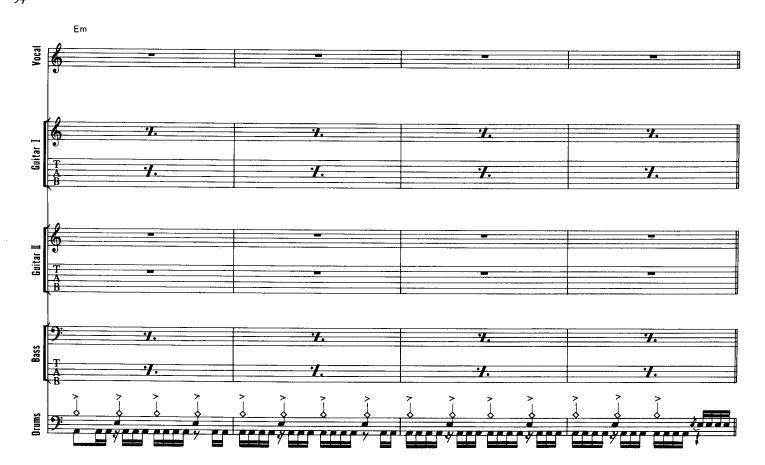




- C

back)







-(Arp.)-



rHarm∙1

He as hol - low as

now

now

 $\overline{\mathbb{K}}$ Em

- Arpeggio -

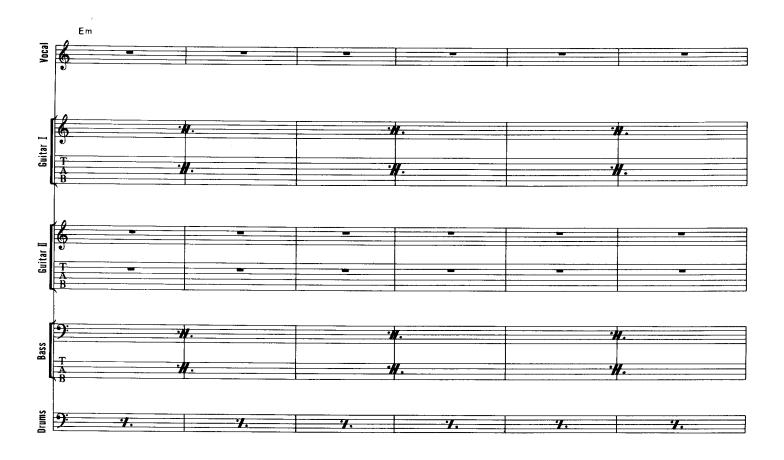
- Arpeggio -

Guitar I

Guitar 🏻

Bass

hol - low



Em

| Find | Fin

156